

令和5年

# 新春講演

に参加して



橋本 修一



令和5年2月2日に行われた新春賀詞交歓会に先立ち、新春講演「防災に関する断と新年にあたり落語」という内容で、講師は、真打林家久蔵師匠(きゅうぞう：以下敬称略)でした。ここで林家久蔵について、簡単にご紹介しておきたいと思えます。生まれは、1969年8月23日で現在53歳です。1992年に早稲田大学工学部数学科を卒業されました。さらに在学中の1991年には、吉本新喜劇の東京オーディションを120人中ただ一人だけ合格されたという、硬軟取り混ぜた秀才です。早稲田大学卒業後の1992年8月に林家木久蔵師匠に入門しましたが、当時木久蔵師匠が釣りの番組を持っており、自分にもチャンスがくるかもと、期待したそうです。しかし実際は、番組に出演する前に、番組が終わってしまったそうです。同年11月に前座になりますが、その時に師匠から「久蔵」という名前を



もらったそうです。これは、もともと高校大学時代に弓道部に所属していたためで、もし剣道をやっていたら「けんぞう」、柔道だったら「じゅうぞう」になっていたでしょう、というマクラを振ることになっています。この日もこのマクラを振ったのですが、この日の皆さんは、緊張していたせいも、あったのでしょうか、あまり笑わなかったので、困っていました。さて話を元に戻して、前座から3年後の1995年11月に二ツ目昇進、更に2006年3月に真打に昇進されたのでした。その後、西東京市PR親善大使に任命された林家久蔵は、特殊詐欺被害防止啓発用動画などをYouTube等にあげています。

ここで、本題に入りたいと思いますが、本日の出し物の前半は、防災に関してでした。ご自身の経験談で、町内会の避難所の評議会の会長をやっているという話でした。自助共助公助を胸において、防災に努めていきたいと思えます。

そうこうしている間に、1時間経ったころ、本日のメインの落語が、始まりました。本日は、残念ながら、観客が少なく更にみんな真面目な方達でしたので、なかなか爆笑まで持って行けなくて苦労していたみたいでした。

落語の内容は、「目薬」でした。なかなか寄せでも聞けない演目でした。さてそれでは、お後がよろしいようで、この辺にしたいと、思えます。林家久蔵師匠、お疲れ様でした。



林家久蔵師匠▶